

意見交換の経緯

第2回検討会において、路線バス車内における車いす固定に関する問題やその対策等について、「車いすメーカーの認識や実態を把握することが必要である」との委員からの意見を踏まえ、より幅広い視野での議論を進めるため、車いすメーカーと意見交換を実施。
(令和2年10月22日 車いすメーカー5社と意見交換)

車いすメーカーの主な意見

○ 車いす使用者からのオーダー内容について

- ✓ 車いすの多くはオーダーメイドであるが、「路線バスに乗車するため、固定装置を取り付けられる構造にしてほしい」というオーダーはほとんどない。
- ✓ マイカーに乗車可能な設計にしてほしいというオーダーはあるが、バス乗車を想定したオーダーはほとんどない。

○ 車いすの構造について

- ✓ 日本製のほとんどの車いすのフレームは同じパイプ構造となっており、固定するためのフックをかけることができる形状となっている。
- ✓ 他方、一部のスポーツタイプの車いすには、フックをかけることができるパイプが存在せず、固定が困難なものがある。



車いすメーカーとの意見交換結果について

○ 円滑な固定に向けた工夫について

- ✓ 車いすの固定箇所を明示することで固定時間の短縮が図れると思うが、フレームの1か所に力をかけて強度を測定する等、バス乗車時の固定を念頭においたJIS規格はなく、メーカーとして強度が保証できないため、自ら固定箇所を示しづらい。
- ✓ フレームの基本的な構造は変わらないため、イラスト等を用いて、車いすの固定箇所を明示するようなポスター等を作成・周知してはどうか。

○ その他

- ✓ スポーツタイプの車いすを好んで選んでいる使用者は、スタイリッシュに乗りたいという思いがある。そういった使用者に固定してもらうためには、車いすの外観を損なわないことも重要。
- ✓ 海外製の折り畳み式でないタイプの車いすの方が、固定のしやすさの面で有利と考えるが、日本では、軽量でコンパクトに折り畳みができるタイプの車いすの方がニーズが高い。

なお、この意見交換を通じて、車いすメーカーの各社から、「バス乗車時における車いす固定の重要性を認識し、車いす使用における安全確保のため、業界としても固定についての周知・啓発を進めていくことが必要と感じた」との声があった。